

トルコ中銀、政策金利の水準を維持

ポイント① 政策金利の据え置きを決定

4月15日、トルコ中央銀行はカブジュオール新総裁のもと、初の金融政策発表の場を迎え、政策金利である1週間物レポ金利を、現状の19%に維持することを決定しました。大幅な利上げを敢行した前総裁が更迭されたなか、新総裁は、エルドアン大統領から利下げ圧力を受けていましたが、トルコ・リラの下落が続いていたこともあり、今回の利下げは断念したようです。一方で前回の声明にあった、「必要に応じて追加の引き締め策を行なう」との文言が削除されたため、追加利上げの可能性は弱まったとの見方が広がっています。政策金利の発表直後、トルコ・リラは米ドルに対し、一時、前日比で約1%下落しました。

ポイント② 追加利上げを求める声も

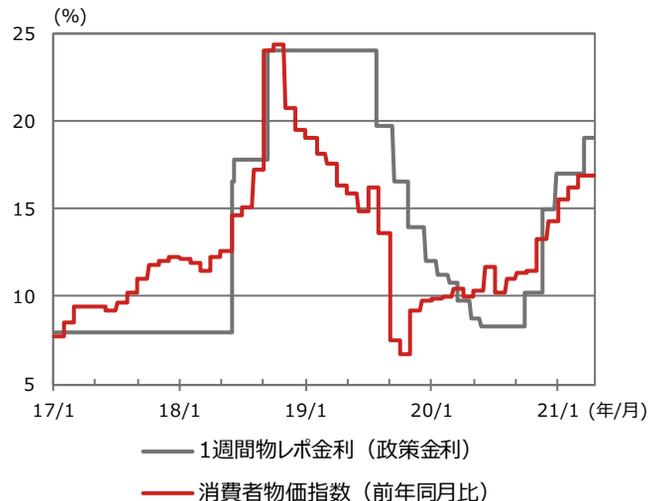
原油をはじめ、エネルギー物資の多くを輸入に頼るトルコでは、通貨安がインフレに直結します。今月5日に発表された同国の3月の消費者物価指数は、前年同月比で16.9%上昇しているほか、中銀総裁更迭後のリラ安の影響で、今後数カ月のインフレ率は一段と引き上がる見込みです。このことから、インフレ率が政策金利を上回る可能性も危惧されており、利上げの必要を指摘する声も高まっています。

ポイント③ リラの上値は当面重い見通し

トルコの2月の失業率は、13.4%と高水準で、国民の生活は深刻さが増えています。中銀は、この状況での追加利上げは、景気を停滞させる可能性がある一方、利下げはインフレ加速を招きかねないというジレンマに陥っており、今後の金融政策の動向には引き続き注目が集まります。また、通貨当局が推進してきた為替介入により、外貨準備高が減少しており、リラの上値は当面重い見通しです。

図1：トルコの政策金利と消費者物価指数

期間(政策金利)：2017年1月2日～2021年4月15日、日次
期間(消費者物価指数)：2017年1月～2021年3月、月次



※消費者物価指数はコア・ベース。
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：トルコ・リラとトルコ中銀の外貨準備高

期間(トルコ・リラ)：2017年1月2日～2021年4月15日、日次
期間(外貨準備高)：2017年1月～2021年1月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント

- 5月3日 トルコ消費者物価指数、製造業購買担当者景気指数(4月)
- 5月6日 トルコ金融政策発表
- 5月11日 トルコ経常収支、鉱工業生産指数(3月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。